

MONTHLY REPORT



2023 年 4 月

Masato TANAKA

高校生だった時、僕は日本テレビのアナザースカイという番組が好きでよく観ていました。著名人が思い入れのある海外の地を紹介するという内容で、海外の景色や生活を疑似体験するような感覚で楽しんでいました。映像のカット割りや各シーンに合わせる音楽などの番組構成が素敵なのでとても満足感の高い番組でした。(ここ数年観られていないのが残念です)

そんな番組の中で僕がデザインを学ぼうと思ったきっかけとなった回があります。佐藤オオキ氏(デザイナー・建築家、デザインオフィス nendo 代表)がゲストとして出演した回です。番組の中で彼はイタリアのミラノを訪れており、思い出として世界最大規模の家具見本市「ミラノサローネ」を紹介していました。佐藤オオキ氏は大学の卒業旅行でミラノサローネを訪れ、フランス人デザイナーの Philippe Starck 氏の個展を見たことがデザイナーになるきっかけになったと語っていました。

また、自身の作品やそれに対する思い、生活観や考え方なども番組内で紹介されていて、テレビ画面の前でデザイナーという職業に漠然と憧れを抱いた記憶があります。同時に、デザインの世界には「nendo の佐藤オオキ」というデザイナーがいて、「ミラノサローネ」というデザインの祭典がある、という2つの憧れのようなものを自分の中に抱いていました。

【ミラノサローネ—Salone del Mobile Milano2023】

僕にとって憧れであり、デザインに興味を持ったきっかけでもあるミラノサローネ。留学でフランスに来ているチャンスを生かし、ニースからイタリア・ミラノの会場まで実際に訪れることができました。(隣の国なので高速バスで数時間でした。)

2000 を超えるインテリアメーカーが世界中からミラノに集まり展示を行う世界最大規模の家具見本市。インテリアメーカーを中心にして、世界中のデザイナーが様々な形で携わりながら、それぞれの自社商品のプロモーションやデモンストレーションのために、競い合うように様々な展示空間を作り出しています。展示会ではありますが、来場者のほとんどは業界関係者。巨大なビジネス商談会場のような雰囲気です。来場者数は30万人を超え、それぞれのメーカーにとっては大きなビジネスチャンスということもあり、展示空間のクオリティの高さには度肝を抜かれます。

デザインを学ぶ学生の視点からすると、空間デザイン・ビジュアルデザイン・プロダクトデザイン・システムデザイン・UXデザイン・ブランディングなど、様々な分野における一流のデザインノウハウの集合を、一つの展示空間として秩序を持った形で見ることができる。しかもそれが2000を超える数集まっている。持て余すほど最高の学び場です。学生のうちに経験することができて本当に良かったです。

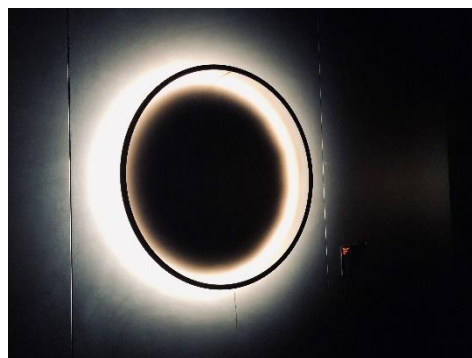
【ALBE. Luci di domani】

数ある展示の中で印象に残ったのは、「ALBE. Luci di domani(英：The lights of tomorrow)」というデザイン・リサーチ機関の From outer Space によってデザインされた展示空間でした。ALBE は特定のメーカーの展示ではなく、キュレーターの Matteo Pirola 氏と From outer Space による、様々なデザイナーの発光体作品を集めた展示です。

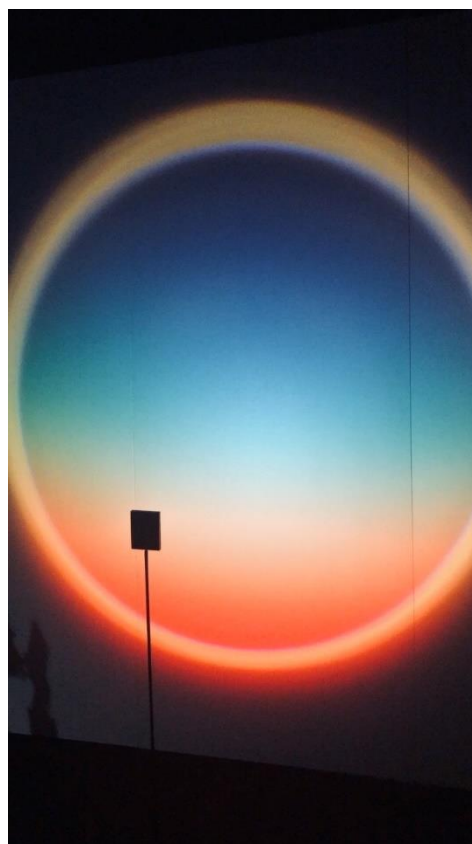
彼らは「デザイナー＝天文学者」と捉え、デザイナーが太陽・星などの宇宙の光、また、それらによる地球における光環境の変化などを調査して（参考にして）生み出した数々の発光装置（照明など）を集め、それらを再解釈し、展示空間を構築することで、あらゆる光の現象について再考させるような空間を創り上げていました。（写真では伝えきれないのが残念です）

自然現象の人工物での表現には限界があり、時に空虚さえ感じるとは思いますが、そういった作品を集め、秩序を持たせ、それぞれの作品の魅力を引き出すような展示方法をとれば、作品を通して、見る人に果てしない宇宙さえも想像させることができるのかと感動しました。極端な表現ですが、“ただの色がついた電球“で宇宙を想像するとは思ってもよらない体験でした。

トレンドや新機能、技術力、装飾性などに注力した展示が多い中で、際立って詩的なメッセージ性を持っていたのが印象的でした。



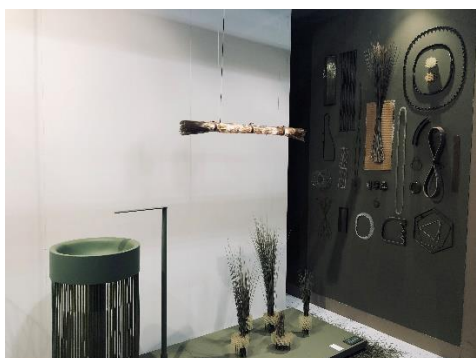
Tilen Sepic 「Eclipse」



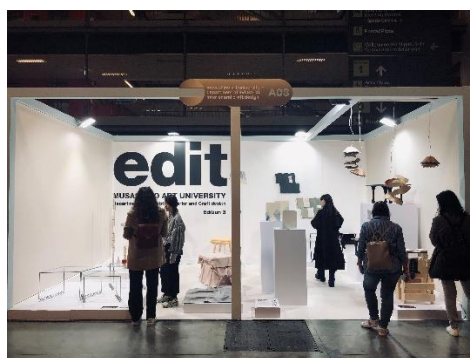
Mandalaki 「Halo Horizon」

【SaloneSatellite】

サローネサテリテという世界中の若手デザイナー・建築家、学生などの作品展示会も同じ会場で行われていました。僕と同年か少し上くらいのクリエイターたちが、ミラノサローネの会場に堂々と作品を展示していました。日本からも若手デザイナーや学生が出展をしており、日本のデザインラボ HONOKA が「TATAMI ReFAB PROJECT」というプロジェクトで SaloneSatellite での最優秀賞を受賞していて、とても刺激的で自分のキャリアにおけるモチベーションにもなる展示でした。



HONOKA
「TATAMI ReFAB PROJECT」



学生展示「edit」
日本の学生達のハイレベルな作品が並ぶ

【nendo -Break to Make- in Milan design week】

ミラノサローネと同時期に開催されるミラノデザインウィーク。ミラノの街のいたるところで様々な展示が行われます。

nendo とアーティストの Daniel Arsham との「Break to Make」というコラボレーションプロジェクトがデザインウィークの展示としてミラノにある nendo のオフィスで行われていたので、ミラノサローネの後に訪れてみました。



同時期にミラノに佐藤オオキ氏が滞在していることは SNS で知っていたので、もしかしたら会えてしまうのでは、、、?!と、高校生のころに彼を知ってデザインの世界に足を踏み入れた僕からすると、激アツな展開を思い描いていましたが、残念ながら会えませんでした。おとなしく展示を見てすぐ帰りました。

高校生だった僕は、まさか自分が「ミラノサローネ」に実際に行って、さらには、ミラノで佐藤オオキ氏に会えたかもしれない、、、なんていう未来は思いもしなかったでしょう。

人生は不思議で、奥深いです。



佐藤オオキ氏（イラスト）
と僕